

第25回全国健康福祉祭 宮城・仙台大会

レポート

ねんりんピック宮城・仙台2012

◆総合開会式◆

10月13日、仙台市宮城野区の市陸上競技場で開かれました。北海道を先頭に47都道府県・20政令市から約8000人の選手が入場行進。ホスト県として最後列にいた宮城県選手団は、大久保宏旗手（卓球・宮城県Aチーム）を先頭に、役員や選手総勢366人が横断幕やミニのぼりを持ち、

震災後の元気な姿と感謝の気持ちをアピールしました。

大会会長の村井嘉浩宮城県知事ら主催者のあいさつや常陸宮さまのお言葉の後、県や仙台市の選手団、ボランティア、伊達キッズの各代表者による力強い「宮城・仙台宣言」が行われました。

◆スポーツ・文化交流大会◆

14、15日、県内各地で熱戦が繰り広げられました。



むすび丸に迎えられての開会式入場行進

18種目のうち、宮城県チームはゴルフ、なぎなた、水泳、健康マージャン、サッカーで優勝を果たし、複数の種目で上位入賞するなど大健闘しました。

美術展では、5



洋画部門で厚生労働大臣賞を受賞した音藤文子さんの作品「晩夏」

Interview

長寿社会への関心の高まり期待

宮城県選手団団長

三浦俊一さん

(県社会福祉協議会会長)



今回の開会式の入場行進では、宮城県選手団はホスト県として最後尾を務めました。他県の方々をもてなす立場であるのを意識し、張り切りながらも、緊張感を持って臨みました。

他県の選手団の中には「宮城県頑張れ」との横断幕を掲げて行進してくれた団体もあり、大変ありがたかったです。

県内各地で18種目のスポーツ・文化交流大会が行われ、サッカーやゴルフ、なぎなたなど五つの競



音楽文化祭のフィナーレでは、会場が一体となって盛り上がった

部門（洋画・日本画・書・写真・工芸）に20作品を出品。厚生労働大臣賞をはじめ8作品が入賞しました。

◆音楽文化祭◆

大会事務局によると4日間の参加者数は、選手や関係者、観客も含め、延べ51万人。スポーツ交流大会をはじめ、県の魅力をアピールする催しや健康・生きがい関連イベントで、世代や地域を超えた交流の輪が広がりました。

中でも、東京エレクトロンホール宮城で開かれた音楽文化祭には、女川潮騒太鼓や多賀城高校吹奏楽部といった県内外8団体と加藤登紀子Withみちの空（く）が出演。フィナーレは全員で「わせねでや」を歌い、出演者と来場者が一体と



来年の開催地高知県へ、大会旗と一緒に触れ合いの輪を引き継いだ

なり盛り上がりしました。

◆総合閉会式◆

高知大会へ

16日、東京エレクトロンホール宮城で開かれた総合閉会式では、宮城・仙台大会の交流大会会場やイベント会場での触れ合いや交流の様子メモリアル映像として放映されるなど、フィナーレにふさわしい大会の思い出が深く心に刻まれる式典となりました。

来年は高知県での開催となります。大会旗が村井宮城県知事と奥山仙台市長から岩城孝章高知県副知事に手渡され、宮城・仙台で生まれた「喜び・ふれあい・笑顔・感動」と共に引き継がれました。

来年の開催地の高知県へ大会旗が引き継がれた時は、思わずほっとしましたね。

今回、宮城県がねんりんピックの開催地となったことで、ねんりんピックへの県民の関心や認知度は高まりました。高齢者がスポーツや文化活動にいそしみ、全国の方々と交流を深めていることも知ってもらえたと思います。これを機に、宮城のよりよい長寿社会づくりに、もっと関心が寄せられるよう期待しています。

最後に、市町村や主管団体など、運営に携わった関係者の皆さま、大変お疲れさまでした。